

平成26年度 大学院工芸科学研究科入学宣誓式（秋季） 学長告辞

本日ここに入学式を迎えた大学院博士前期課程15名、博士後期課程33名の皆さんに対し、京都工芸繊維大学を代表し、心から歓迎の意を表します。

新入生の皆さんは、希望と喜びをもって、今日の入学宣誓式に臨まれたことと思います。皆さんの新しい力を迎え入れることができたことは、京都工芸繊維大学にとって、大きな喜びであります。

京都工芸繊維大学は、理工系の国立大学であり、科学と芸術の融合を目指して教育研究活動を行っています。大学理念を大胆に簡略化すれば、知と美と技、そして学風の底流に流れる京の四文字に縮約することができます。我々はこのキーワードが指し示す方向に向かって大学個性を伸ばすべく、教育研究活動を展開しています。日本の研究力低下が叫ばれる今日において、日本の研究力強化のためにも、是非大学院生皆さんのご尽力と野心のある活動を期待しています。

いま、京都工芸繊維大学は、国立大学の先頭を切って、大学改革を推進しています。今年から、これまでの斬新な改革を更に進化させ、産業界や国民の期待に応えるべく、専門技能だけでなく、プロジェクトを成功に導くためのリーダーシップを身につけた人材の育成に乗り出します。多くの人を束ね、リスクを見極め、ときには利害の調整を行い、プロジェクトを成功に導く人物、深い専門性とともにプロジェクトを成功に導くための能力を兼ね備えた人物、テック・リーダーと呼ぶべき人材の育成に全力で邁進するつもりです。京都工芸繊維大学の卒業・修了生は、これまでもその専門性において高く評価されてきましたが、今後はさらに、管理運営の能力においても高い評価が得られる人材を輩出していくべきだと考えています。

さて今日、大学が社会から求められているモノ、それは教育・研究・社会活動の3つであります。特に大学に対する期待が非常に高まっている社会活動とは、単なるボランティア活動などを指すものではありません。大学がおこなうべき社会活動とは、「COC」、「COI」、「国際貢献」の3つの明確な内容を意味しています。「COC」とはセンターオブコミュニティのことであり、大学は地域の核となり、地域の活性化に寄与すべきであるというメッセージであります。「COI」はセンターオブイノベーションの略であり、大学には産業振興の核となることが強く求められています。さらに、「国際貢献」に関しては、本学では、特に東南アジア、ヨーロッパ、北米に注力して交流活動の展開を図ります。

特に日本人学生の海外派遣と留学生の受け入れについては、規模を拡大し、大学全体の国際化、キャンパス全体の国際化を図り、１０年後にはこのキャンパスの風景が一変するような変革を実行していきます。

京都工芸繊維大学は、今後１０年間、世界に、社会に、地域に開かれた工科大系大学を実現すべく活動していきます。そして１０年後には、京都工芸繊維大学は、研究者、技術者、教育者、企業人を引き付け、イノベーションの拠点となること、世界中でプロジェクトを成功に導く国際高度技術者、テック・リーダーを輩出するアジアの拠点大学となることを目指します。

世界から優秀な人を引き付けるには、京都工芸繊維大学自身が魅力的でなければなりません。そこで本学では、「カリキュラム、空間、人材の魅力化」をテーマとして、大学全体の国際化を推進するため、いくつかの改革を実行します。

第一番目は「カリキュラムの魅力化」です。

本学では、世界の現場で・リーダーシップを発揮して・プロジェクトを成功に導く「TECH LEADER」と呼ぶべき人材を育成します。TECH LEADER には、確固たる専門性、リーダーシップ、外国語運用能力、日本人アイデンティティが求められます。その能力を獲得するためには、学部定員を減らし、大学院定員を増やします。同時に、学部、修士、博士の区切りを実質的に３年－３年－３年とし、更にクォーター制を組み合わせることにより、海外インターンシップなど海外に出ていきやすい環境を整えます。

モデルでいえば、学部三年間で徹底的に英語を鍛え上げ、プレースメントテストによる選抜を経て、大学院のグローバルコースに進学し、修士（中間）の３年間で必修科目である海外インターンシップに出る。京都の地の利を活かしたリベラルアーツで日本的感性を涵養し、企業と共同して行う PBL に留学生や他専攻の学生とともに参加することによって、異分野・異文化交流を体験し、その中からリーダーシップを体得していきます。

２番目は、「キャンパスの魅力化」です。

そのために国際的な拠点、TECH SALON を開設します。海外からユニットで招聘する大学のサテライトオフィスとして開放します。海外の研究者、教員、学生、民間企業の交流空間として今年７月に竣工した社会連携施設にスペースを確保しています。

３番目は「人材の魅力化」です。

毎年１０名の教員を海外の大学に派遣し、１０年で１００人を派遣します。一

方、本学から海外への展開・発信を行うために、欧州、北米、東南アジアの3か所に拠点を開設し、全教員の研究者紹介を動画で作成し、外国語で発信します。

こうした研鑽と努力の相乗効果により、グローバル化の基盤を確立すると同時に本学の強みを先鋭化して本学の国際的プレゼンスを高めていきたいと考えております。そのために、モデル研究室を指定します。各部門から国際化モデル研究室を1年単位で指定し、10年後にはほとんどの研究室が国際化した状態を作り出し、さらに地元企業、自治体、卒業生をメンバーとするコンソーシアムを立ち上げ、本学を通じて海外大学との接点を作り出して共同事業やイノベーションを生み出す仕掛けを作っていきます。

来年4月からは、全課程・全専攻において改組を実施し、学部と修士の定員比率を87.5%まで引き上げます。これは国内トップクラスの大学院比率となります。同時に大学全体の学年構造を実質的に3年－3年－3年に変更すると共に、クォーター制を導入することにより、海外インターンシップへの派遣や実践的教育を推進していきます。すなわち学部から修士にかけてステップアップ型のPBLを展開していきます。学内での実習→地域での実習→海外での実習というステップを踏むことで、あらゆる現場での課題解決を遂行できるリーダーシップをもった人材を育成していきます。

我々は、国際的イノベーションの拠点大学、人材育成を通じて日本の魅力を世界に送り届ける大学を目指しています。本学はデザインと工学が一大学の中に共存する国際的にも希有な教育研究環境であり、海外一線級の研究者・学生との国際混成PBLを行う機会も豊富です。新入生諸君においては、国際的に開かれた環境の中で、グローバルな人材となることを目標に、自信をもって大学院生活を送ってください。大学院における学生生活が実り多きモノとなるよう、皆さん方の活動によって、本学の研究力の向上、ひいては人間社会の知的財産が豊かになることを、念願しています。

平成26年9月26日
京都工芸繊維大学長
古山正雄